

平成10年度決算の概要

1. 需 要

平成10年度のがわ国経済は、金融システムへの信頼低下に雇用不安などが重なり、個人消費や住宅投資が総じて低い水準で推移し、設備投資が大幅に落ち込むなど、景気の低迷が長引き、極めて厳しい状況が続きました。このような情勢を反映して、産業用需要は、前年実績を下回りましたが、民生用需要については、夏場の気温が前年にくらべて高く推移し、冷房需要が増加したことから、前年実績を上回りました。

この結果、当年度の総販売電力量は、1,388億2千万キロワット時と、前年度にくらべて電灯は4.5%増加、電力は0.5%減少し、電灯電力合わせて1.0%の増加となりました。

2. 供 給 力

供給力につきましては、奥多々良木発電所第5、6号機が営業運転を開始し、また、出水率が111.6%と豊水に恵まれたこともあり、年度を通じて安定した需給関係を維持することができました。

3. 収 支

収支につきましては、収入面では、総販売電力量は増加しましたが、平成10年2月に実施した電気料金の引下げが、年度を通じて影響したため電灯電力料収入は前年度にくらべて516億円減少し、2兆4,778億円となりました。これに、その他の収益を加えた経常収益合計は、2兆5,446億円となり、前年度にくらべて622億円減少しました。

一方、支出面では、原油価格の低下等により汽力発電用の燃料費が減少したことに加え、経営全般にわたる徹底した効率化を推進し、修繕費や諸経費の節減に努めた結果、経常費用合計は2兆4,157億円と前年度にくらべて566億円減少しました。

以上の結果、経常利益は1,288億円、当期利益は509億円となりました。

以 上